

内航用船料、4~6%上げ

鋼材船や
化学タンカー

今年度、一部除き決着へ

内航貨物船の二〇〇七年度の用船料(海運会社が船主から船を借りる賃料)交渉が一部を除きほぼ決着した。船主側の一〇一~一〇%の引き上げを請に対し、鋼材船が四一五%で合意したほか、ケミカル(化学品)タンカーは一部大手が六%前後引き上げた。一方、石油製品は交渉が長引いており、用船料も荷主企業の業績動向を反映した形になりつつある。

燃料・人件費上昇などで

内航船の船主側は燃料費高騰や人件費上昇など理由に一〇%以上の大幅な用船料引き上げを海運会社に要請していた。

新造船建造コストも値上げ理由に挙げていた。化学品タンカーを含め内航船の用船料が上昇するのには三年連続。鋼材運搬船の新用船料は標



段ボール原紙値上げ

9月、需要家交渉が決着

1年ぶり

段ボール原紙の価格が一年半ぶりに上昇した。最大手の王子板紙などが打ち出していた九月一日が打ち出していた九月一日

段ボールに折り込み線を入れたケース(箱)やその前段階であるシートのメーカーが値上げを受け入れた。波状に成型した中しん原紙(D級)の交渉は、原紙メーカーが打ち出していた九月一日

が広がった面もある。今後はシート・ケースメーカーの値上げが焦点だ。九月末までに二〇%以上の値上げを巡り需要家と交渉中。値上がり幅が小さければ原紙価格の上昇分を補えず、採算悪化につながりかねない。

段ボールに折り込み線を入れたケース(箱)やその前段階であるシートのメーカーが値上げを受け入れた。波状に成型した中しん原紙(D級)の交渉は、原紙メーカーが打ち出していた九月一日

豚肉、TOKYO-Xの卸値が十月から上昇する。主な飼料となる大麦、トウモロコシが高騰し、農家の値上げ要求が強まった。生産意欲を高めて供給増により一層の普及、浸透を目指す。

小売店などの卸値は一千三百円(ロース、ヒレなど正肉のセット価格)と、九十円(七%)上がる。骨などが付いた枝肉換算では一千七百円と五十三円(八%)の値上げとなる。通常の豚枝肉の卸値(上物、加重平均)は東京市場で四百九十八円(今年一~八月平均)

高級銘柄豚肉「TOKYO-X」

卸値、10月から引き上げ



飼料価格上昇で値上げに均す。

総会では小売店側から「値上げ率を三、四%に収められないか」との声が出たが、生産農家は飼料高騰による苦境を訴えた。飼料価格は一ト四万円強と前年度に比べ一万円高いという。植村会長は「値上げしないと生産基盤を維持できない」と理解を求めた。

飼料高騰が響く

TOKYO-Xは一九九七年に都の畜産試験場(現・東京都農林水産振興財團)が開発した。値上げは二回目。〇六年度の出荷頭数は七千七十九頭。市場への浸透を目指して一〇年には三万頭を計画している。

以上の中しん原紙の値上げに向け各社の動きが重なれば浸透しやすくなる。実際のメーカーが値上げを受けてきた。波状に成型した中しん原紙(D級)の交渉は、原紙メーカーが打ち出していた九月一日

が広がった面もある。今後はシート・ケースメーカーの値上げが焦点だ。九月末までに二〇%以上の値上げを巡り需要家と交渉中。値上がり幅が小さければ原紙価格の上昇分を補えず、採算悪化につながりかねない。

的な積載量一千キログラムのタンカーで月額千九十万円二百二十万円になつた。

ただ老朽船の船主のなかには「引き上げ額がゼロ回答の事例もあつた」(四国地方の船舶管理会社)。用船料の上げ幅は船の建造後の年数、積載量や運航速度によってばらつきが出ている。

輸出採算が好調で好業績の鐵鋼、石油化学など荷主は運賃の大幅上げが続くとは対照的に抵抗したが、ある程度の引き上げに応じたものよ

う。海運会社も用船料引き上げを決めた。石油製品タンカーは石油会社が

採算は大きく好転している。海運会社の再び下がり続けた影響もあって、船主や海運会社の内航運は一〇四年度まで十三年連続で用船料

輸出採算が好調で好業績で運賃、用船料も騰勢

が続くとは対照的に内洗浄など労働条件の厳しいタンカー乗組員は他

の海運会社から人材引き抜きの標的になつていい

びていない。

内航船の船員は日本人に限られ、高齢化で人材不足も深刻だ。「タンク

の荷主は運賃の大幅上げが続くとは対照的に人材不足も深刻だ。「タンク

の荷主は運賃の大幅上げが続くとは対照的に人材